

【担当教員名】 亀田和夫	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<一般目標：GIO>

発声器官特に喉頭に起因する話し言葉の障害を音声障害という。  
 正常な発声についての既知の知識を整理し、声の評価について学ぶ  
 これらの認識の上で音声障害を惹き起こす疾患について学び、障害の治療について理解して行く。

<行動目標：SBO>

1. 発声とその障害についての基礎知識を確かなものとする
2. 音声障害を惹き起こす疾患について学ぶ
3. 音声治療について適確な知識を得る

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	発声のしくみについての演習	1	模型を観察し操作する
2	発声の規定要因についての演習	1	Multispeechの分析を観察する
3	声の評価についての演習	2	音声言語医学会作成のカセット聴取
4	音声障害を来たす疾患についての演習（1）	3	主題についての討論
5	音声障害を来たす疾患についての演習（2）	3	概要を各自で表に極め、討論する
6	音声障害の治療についての演習	4	治療手技を模擬体験する
7	喉頭摘出の音声リハビリテーション	5	人工喉頭などを体験する

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	音声障害	刈安誠	建帛社	2001年2730円
参考書	音声障害のメカニズム	浜村真理ほか	医歯薬出版	2001年 4600円+税
その他の資料				

【評価方法】

平常の学習状況と定期試験の結果を総合評価する

【履修上の留意点】

音声障害と音声障害演習は随時時間を交換して行なう